

マンツーマンコミッショナーの設置および競技会(試合)における運用について

〔マンツーマンコミッショナー設置の目的〕

マンツーマンコミッショナー(以下、「コミッショナー」)設置の主な目的は、試合における違反行為を取り締まることではなく、マンツーマンに対する理解を推進し、円滑に試合運営を行い、より子どもたちがバスケットボールを楽しめる環境を構築することである。

〔マンツーマンコミッショナーの任務〕

ゲーム中はコミッショナーがマンツーマンディフェンスを監督・管理する。マンツーマンディフェンスの基準規則(以下、「基準規則」)違反の判断はコミッショナーが行い、コミッショナーのいない大会でも、審判の判断だけで処置を下すことはない。

- (1) コミッショナーは違反行為が生じた際に「黄色(注意)」の旗を振り、そのチームのベンチを指し、コーチ・選手の対応を確認する。
- (2) 改善しない場合は、「赤色(警告)」の旗を上げ、ゲームクロックが止まった際に審判に伝達し、TO席の前で両チームのコーチに対して内容を簡潔に説明する。(審判により、コーチに警告が与えられる)
- (3) 同じチームの2回目以降の違反行為に対しては、1回目と同様にゲームクロックが止まった際に審判に伝達し、TO席の前で両チームのコーチに対して内容を簡潔に説明する。(審判により、コーチにマンツーマンペナルティが与えられる)
- (4) 「赤色(警告)」の旗が掲げられた場合、コミッショナーはボールのコントロールが変わった時およびボールがデッドになった時に速やかにホイッスル・ブザー等で審判に知らせてゲームを止める。オフィシャルはホイッスル・ブザー等と同時にゲームクロックを止める。ゲームを止めた後は、赤旗に関する処置を行う。

※ (2)「改善」とは「選手のプレーについての改善」である。

※ (2)「黄色(注意)」の旗から「赤色(警告)」の旗への移行の目安は「5秒程度」とする。ただし悪質な違反行為とコミッショナーが判断した行為については「黄色(注意)」の旗を振らずに「赤色(警告)」の旗から振ってよい。また、「黄色(注意)」の旗を振っているときに即座に「赤色(警告)」の旗を振ってよい。

■ボールのチームコントロールが変わる時(ボールのコントロールが変わる時)

- ・ オフェンス側自身のミスやディフェンス側がスティールすることにより、ディフェンス側がボールをコントロールした時
- ・ ディフェンスリバウンドをコントロールした時
- ・ フィールドゴールが成功した時
- ・ ファウル・バイオレーションが起こった時

■ボールは次のときにデッドになる(競技規則第10条ボールのステータス(状態)、10-3)

- ・ フィールドゴールあるいはフリースローが成功した時
- ・ ボールがライブで審判が笛を鳴らした時
- ・ フリースローでボールがバスケットに入らないことが明らかになり、その後:
 - あとにフリースローが続く時
 - 別の罰則(フリースローやボールのポゼッション)がある時
- ・ クォーターおよびオーバータイム終了のゲームクロックのブザーが鳴った時
- ・ チームがボールをコントロールしている間にショットクロックのブザーが鳴った時

【補足】ただし、ショットクロックのブザーが誤って鳴った時は除く。

- ・ ショットされたボールが空中にある間に次のいずれかが起こった後で、どちらかのチームのプレーヤーがボールに触れた時：
 - 審判が笛を鳴らした後
 - クォーターおよびオーバータイム終了のゲームクロックのブザーが鳴った後
 - ショットクロックのブザーが鳴った後

(具体的な対応)

- ・ ディフェンス側がボールをコントロールした時は、ゲームを止める。
- ・ オフェンス側が得点を取った時は、得点を認め、ゲームを止める。
- ・ オフェンス側がオフェンスリバウンドを取った時は、まだボールコントロールがあり得点を取る機会が継続しているためゲームは止めない。
- ・ 審判が笛を鳴らした時は、ゲームを止める。
- ・ プレーが止まるまでに起きたことは全て記録する。

※ 違反行為の数はコミッショナーが管理する。

※ 審判が「赤色(警告)」の旗に気付かない場合は、ゲームクロックが止まった際にブザーを鳴らすことも可とする。

※ 悪質な違反行為については、「黄色(注意)」の旗を振らずに、「赤色(警告)」の旗を上げることも可とする。(試合終了間際など)

※ 体力、技術不足により故意ではない違反行為が発生する可能性もあるため、違反行為の判定にあたっては留意する。

※ インターバル、ハーフタイム等も必要に応じてコーチ・審判とコミュニケーションを図り、円滑に試合を進めるよう努める。

※ 試合終了後、速やかに競技会主催者(競技本部等)に報告する。

【審判の任務】

日本全国において一貫した基準でマンツーマンの推進を行うことが目的であり、違反行為を取り締まることが目的ではないことを理解する。審判はコミッショナーと密に連携を図り、円滑な試合運営を行う。

(1) 1 回目の「赤色(警告)」の旗が上げられた場合

「赤色(警告)」の旗が上がり、最初にゲームクロックが止まった際、クルーチーフは TO 席の前に両チームのコーチを集め、コミッショナーからの説明後に、当該コーチに対し警告(1 回目)であることを明確に伝える。この間、アンパイアはコート内の選手を把握し、すぐにゲームが再開できるようにその場に待機させる。

コーチから選手に説明が必要な場合、TO 席前にコート上の 5 人の選手を集め説明を行わせた後、速やかにゲームを再開させる。

※ 他の罰則によりフリースローがある場合は、コミッショナーによる説明を行い、当該コーチに警告を与えた後フリースローを行い、ゲームを再開する。

※ 不必要に時間をかけずに、ゲームの再開を速やかに行う。

(2) 2 回目の「赤色(警告)」の旗が上げられた場合

「赤色(警告)」の旗が上がり、それが**同じチームの 2 回目以降**の違反行為の場合は、最初にゲームクロックが止まった際、主審は TO 席の前に両チームのコーチを集め、コミッショナーからの説明後に、当該コーチに対しマンツーマンペナルティを宣する。

※ 相手チームに 1 本のフリースローを与える。

※ 他の罰則によるフリースローがある場合は、(5)のとおり処置を行う。

(3) 各クォーターおよびオーバータイムの終了間際の処置について

各クォーター(オーバータイムを含む)の終了間際に違反行為が生じ、コミッショナーが「赤色(警告)」の旗を上げ、そのままゲームクロックが止まらずに各クォーターが終了した場合、その警告および罰則はすべて有効とする。

①1 回目の違反行為(赤色の旗・警告)の場合、各クォーターが終了したのち、主審は TO 席の前に両チームのコーチを集め、コミッショナーからの説明後に、当該コーチに対し警告(1 回目)であることを明確に伝える。

※ インターバルの時間は、コーチに警告が与えられた後からはかり始める。

②同じチームの 2 回目以降の違反行為(赤色の旗・警告)の場合は、各クォーターの終了後ただちに相手チームに 1 本のフリースローを与える。

※ インターバルの時間は、フリースローが終わってからはかり始める。

※ 次のピリオドは、ポゼッションアローに従って、センターラインのアウト・オブ・バウンズからのスローインで開始される。

(4) ゲーム終了間際(第 4 クォーター・オーバータイム)残り 2 分を切ったからの違反行為(赤色の旗・警告)については、1 回目の警告でもマンツーマンペナルティの対象とする。

※ 試合の勝利を意識しての意図的なイリーガルディフェンスは、1 回目の警告でマンツーマンペナルティとなる。

※ 本項は、ミニバスケットボールにおいては適用しない。

(5) 他の行為による罰則と基準規則違反による罰則(マンツーマンペナルティ)が重なった場合(2019 年 4 月 1 日からの新ルール適用により)

・テクニカルファウルが宣せられた場合、1 本のフリースローのみ速やかに与えられる。テクニカルファウルによるフリースローの後、テクニカルファウルが宣せられた時にボールのコントロールを得ていたか、与えられることになっていたチームによって、テクニカルファウルが宣せられた時の状態からゲームは再開される。

・マンツーマンペナルティとテクニカルファウルの扱いは同じであるため、上記文言を適用する。

・他の行為による罰則と基準規則違反による罰則が重なった場合、コミッショナーによる説明を行った後、マンツーマンペナルティの罰則を適用した後、他の罰則の処置を行う。

《注意》

基準規則違反によるマンツーマンペナルティの罰則が適用される前に、新たに別のテクニカルファウルが宣せられた場合など、罰則の重さが等しい場合は競技規則第 42 条『特別な処置をする場合』に従い、処置をする。

但し、ミニバスケットボールでの適用については、「友情・ほほえみ・フェアプレーの精神」により、全て罰則を平等に適用することが望ましいとの考えから、競技規則第 42 条を適用せずに、**起きた順序に従ってすべてのフリースローを行う。**

(6) その他

・コミッショナーの「赤色(警告)」の旗の対応とタイムアウトの請求が重なった場合は、コミッショナーの説明を済ませた後、審判がタイムアウトを宣する。罰則(マンツーマンペナルティ)が適用される場合は、タイムアウトの後、フリースローを行い、マンツーマンペナルティが宣せられたときにボールのコントロールを得ていたか、与えられることになっていたチームによって、マンツーマンペナルティが宣せられたときの状態からゲームを再開する。

・基準規則違反によるマンツーマンペナルティは、コーチ自身のファウルとして記録し、**チームファウルに数えない。**(スコアシートにはコーチの欄に「M」と記録する。)

※ U15 においてコーチ自身にマンツーマンペナルティが 2 回記録された場合、コーチは失格・退場になる。(競技規則第 36 条)

※ U12 においてコーチ自身にマンツーマンペナルティが 3 回記録された場合、コーチは失格・退場になる。

〔大会主催者の任務〕

- ・競技会主催者は、大会要項に「マンツーマンディフェンスの基準規則」に則ることを記載する。
- ・試合が見渡せる場所(スコアラーズテーブルの後方またはスコアラーズテーブルの反対側)にコミッショナー席を置く。事前に両チームのコーチにはコミッショナー席の位置を伝えておくこと。
- ・コミッショナーの人数については1名または2名とする。
- ・競技会主催者は、競技会終了後に所属都道府県協会のマンツーマンディレクターに報告書を提出する。

以上

2016年3月25日改定
2017年10月25日改定
2018年4月1日改定
2019年2月21日改定
2019年6月10日改定